

経営健全化方針に基づく取組状況（令和４年度）

○法人名

（一社）富士見パノラマリゾート

○経営健全化方針を策定した理由

- ・施設建設時及び富士見町から借り入れた債務が主な要因で、債務超過となっている。

○財政的リスク状況

	令和元年度決算	令和２年度決算	令和３年度決算	令和４年度決算	目標達成年度 (令和５年度)
債務超過額 (円)	717,381,918	752,439,403	719,695,804	698,520,408	600,000,000

○主な取組状況（令和５年３月現在）

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- ・平成３０年度に「成長戦略プロジェクト」を発足させ、１０年後の成長計画目標を設定した。成長戦略ストーリーは①新規事業②自然環境整備③成長に向けた人事制度など、９つのプロジェクトチームを作り具体的な検討を行った。

＜成長計画目標＞

- ①お客様倍増 年間 25 万人 ➡ 50 万人
- ②売上倍増 13 億 7 千万円 ➡ 27 億 4 千万円
- ③営業利益倍増 8 千 700 万円 ➡ 1 億 4 千万円
- ④社員数倍増 127 名 ➡ 254 名
- ⑤給料倍増 30 万円（平均賃金） ➡ 60 万円

≪具体的成果≫

- ② 社名を「富士見町開発公社」から「富士見パノラマリゾート」に変更した。
- ②いちご農園を事業化させ、摘み取り体験や販売等、新規事業として定着した。
- ③冬期間の新たなアクティビティとしてアイスクライミングウォール事業が定着した。
- ④スキー場の発券 POS システムの更新を実施した。
- ⑤山野草公園内に新ルートを設定した。
- ⑥クラウド型勤怠管理システムの導入及び昨年度から運用していた給与計算システムとの連携を開始した。

【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応】

- ・パノラマリゾートとの連携により、誘客キャンペーンによる積極的な誘客施策を実施。
- ・コロナ禍における資金確保のための借入に対して、金融機関との損失補償契約。

【その他】

- ・「令和 4 年度 富士見パノラマリゾート固定資産台帳整備及び施設更新費用算定調査」を委託し、固定資産台帳の精緻化や既存施設の耐用年数、劣化度に応じた資産管理や更新費用の算定を行い、将来的に計画的かつ適正な施設管理に資する台帳の整備を実施した。

○法人の財務状況（貸借対照表から）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
資産	939,588,862	1,051,674,338	1,080,280,814	1,108,981,587
（うち現預金）	245,235,195	365,272,051	302,619,706	381,703,361
（うち売上債権）	27,156,824	25,955,135	119,625,010	42,314,838
（うち棚卸資産）	15,914,865	16,423,471	14,220,132	16,193,987
負債	1,656,970,780	1,804,113,741	1,799,976,618	1,807,501,995
（うち当該地方公共 団体からの借入金）	1,430,000,000	1,410,000,000	1,390,000,000	1,370,000,000
純資産額	-717,381,918	-752,439,403	-719,695,804	-698,520,408

（損益計算書から）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
経常収益	1,337,534,272	941,598,768	1,227,785,551	1,353,229,255
経常費用	1,248,990,012	892,540,208	1,119,096,749	1,227,249,350
経常損益	88,544,260	49,058,560	108,688,802	125,979,905
経常外損益	6,518,439	10,241,784	19,038,381	-10,446,769
特別損失	92,922,306	94,285,729	94,911,541	94,285,715
当期純損益	2,140,393	-34,985,385	32,815,642	21,247,421